

## <金標準先物、テクニカル要因の好転で 8000 円超え・・・>



(出所：オアシス)

FOMC 議事録では大半のメンバーが 0.25%の上げを支持したものの、数人は 0.5%を望んでいたことが明らかとなり、市場がより大幅な利上げを織り込む中でドルと長期金利がそれぞれ今年 1 月初旬と前年 11 月以来の高さへ上昇している。特に週末に FRB が重要視する PCE デフレーターでは前月比で事前予想を上回る 0.6%となり、前年比でも事前予想を上回る 5.4%となるなどインフレは依然と上昇を示している。

そのため長期に渡り金利を引き上げる可能性が高まり、金利を生まない金価格は NY 市場で昨年 12 月末以来の 1815.5 ドルまで下値を模索している。しかし円建ての金標準先物は、次期日銀総裁の植田氏が衆議院で所信聴取を行い緩和策の継続を示唆し、岸田首相も「政府として特段違和感のある内容はなかった」と発言し、為替は一時 136.51 円まで円安が進むなど金標準先物は 7930 円まで買われており、再度 8000 円に向けた高値追いの動きが強まると思える。また内部要因でも海外先物業者の買い越し残が 72 週連続の買い残を示すなど円建て金標準先物は円安を受けて強気を維持するのが妥当と思える。

### <テクニカル>

金標準先物の日足の MACD や RCI では、MACD は **MACD** が切り上げながら、**シグナル**は下げ止まるなど乖離幅が縮小している。RCI では**短期**が切り上げ、**長期**は下げ止まりを見せている。また日足が下げ止まった **10 日移動平均線**を上回るなど、テクニカルにおける金標準先物は強気を示唆する動きを見せていると思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 4,500,000 円(2023 年 2 月 27 日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約 10 倍から 70 倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は 1 枚あたり往復 37,620 円(2023 年 2 月 27 日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-5540-8423 (受付時間:平日 8:30~17:30) 証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター <https://www.nisshokyo.or.jp>